

APO Letter

2024
Vol. **88**
July

〈座談会〉

■ 地域連携による がん治療ベースアップへの取り組み

柿本 秀樹 先生
福岡大学筑紫病院
薬剤部 主任

衛藤 智章 先生
国立病院機構
九州がんセンター 薬剤部 主任

本田 雅志
そうごう薬局 天神中央店
上級専門薬剤師



CONTENTS

● Round-table Talk 1

地域連携による
がん治療ベースアップへの
取り組み

そうごう薬局 薩摩川内店
専門医療機関連携薬局認定 7

● 健康サポート薬局 Report
第5回LECT健康相談会を
開催しました(広島) 8

なごや健康フェア2024春に
出展しました 9

高齢化が進行する地域における
総合メディカルの取り組み 11

2024年 学会発表演題紹介 13

総合メディカルの人財育成 14

地域連携による がん治療ベースアップへの取り組み



Round-table
Talk

2021年から専門医療機関連携薬局の認定制度が開始となり、総合メディカルでも2024年7月現在、全国で7薬局が認定を取得しています。専門医療機関連携薬局においては、「地域の他の薬局に対するがんに関する研修の定期的な実施」や、「地域の他の医療提供施設に対するがんに係る医薬品の適正使用に関する情報の提供」などが求められています。今回はがん診療連携拠点病院として地域のがん治療において中心的な役割を果たす福岡大学筑紫病院薬剤部の柿本秀樹先生と、九州がんセンター薬剤部の衛藤智章先生、そして2021年にいち早く専門医療機関連携薬局の認定を取得したそうごう薬局 天神中央店の本田雅志さんに、「地域連携によるがん治療ベースアップへの取り組み」というテーマでお話をいただきました。

[出席者]



柿本 秀樹 先生
福岡大学筑紫病院
薬剤部 主任



衛藤 智章 先生
国立病院機構
九州がんセンター 薬剤部
主任



本田 雅志
そうごう薬局 天神中央店
上級専門薬剤師



柿本 秀樹 先生
福岡大学筑紫病院 薬剤部 主任
プロフィール
2003年、福岡大学薬学部卒業
2005年、福岡大学薬学部博士課程前期卒業
福岡徳洲会病院薬剤部、福岡大学病院薬剤部を経て2022年より現職
【所属学会】日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会(代議員)、日本がんサポーターズ学会、日本医薬品安全性学会
【資格】がん薬物療法認定薬剤師(日本病院薬剤師会)、外来がん治療認定薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会)、がん専門薬剤師(日本医療薬学会)



衛藤 智章 先生
国立病院機構九州がんセンター 薬剤部 主任
プロフィール
2007年、福岡大学大学院薬学研究科卒業
国立病院機構小倉医療センター薬剤科、同 大分医療センター薬剤部を経て2012年より現職
【所属学会】日本医療薬学会(代議員)、日本臨床腫瘍薬学会(代議員)、日本臨床腫瘍学会など
【資格】がん専門薬剤師(日本医療薬学会)、外来がん治療専門薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会)



本田 雅志
そうごう薬局 天神中央店 上級専門薬剤師
プロフィール
2009年、東北大学薬学部卒業
2011年、東北大学大学院薬学研究科博士課程前期卒業
2011年、総合メディカル株式会社入社
2015年、そうごう薬局 天神中央店 配属
2021年、総合メディカル株式会社 学術情報部 兼務
【所属学会】日本医療薬学会、日本臨床腫瘍薬学会(代議員)
【資格】外来がん治療専門薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会)、地域薬学ケア専門薬剤師(がん)(日本医療薬学会)

地域連携と専門医療機関連携薬局について

本田 本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。柿本先生の福岡大学筑紫病院と衛藤先生の九州がんセンターは、がん診療連携拠点病院として地域におけるがん治療と連携において中心的な役割を担っていらっしゃいますが、まずそれぞれの病院の特徴や薬局との連携について、お聞かせください。

柿本 私は福岡大学病院から福岡大学筑紫病院に来ました。福岡大学病院では薬剤師が約60名在籍しているのに対し、筑紫病院では約20名とコンパクトですので、医師との垣根も低く、さまざまなことが決めやすいという特徴があります。また薬剤師数が少ないことから、ファーマシーテクニシャン(調剤助手)と呼ばれる非薬剤師スタッフを効率的に配置しています。例えば入院時の持参薬についても基本的にファーマシーテクニシャンが確認したのちに薬剤師がチェックしています。そのように効率化を進めることで、薬剤師が病棟や外来に割く時間をできる限り増やすようにしています。

衛藤 九州がんセンターでも数年前から同様に調剤助手を増やしていますが、持参薬の確認にとどまらず、院内での運搬や在庫管理など、とても正確に対応いただいています。がんセンターの特徴的なこととして、若い薬剤師が非常に多い病院ですので、薬剤師としての人材

教育に力を入れています。もう一つはゲノム医療など最先端の治療を行っていますので、まずは標準治療について丁寧に勉強する機会を設けることに注力しています。

連携については病院内での事例になりますが、院長直轄の多職種が関わるチームが現在、30ほどあります。これは職員が自主的に手を挙げてチームを作っているのですが、薬剤師が関与しているものとして、免疫関連有害事象(irAE)や皮膚障害対策に関するチーム、高齢者やAYA世代患者へ多職種で介入するチームや院内の化学療法を効率的に運用するためのチームなどがあります。

本田 薬局との連携についてはいかがですか。

衛藤 がんセンターは門前薬局が2軒、それ以外にも1キロ圏内に2、3軒の薬局があり、年に3回程度は地域研修会を実施していますが、毎回100名以上の薬剤師が参加しています。ただし顔の見える連携という意味ではまだまだできていないことが多く、そこは筑紫病院の方が積極的に実施されていると思います。

柿本 筑紫病院では、日本臨床腫瘍薬学会(JASPO)の研修生を多く受け入れており、福岡県下にとどまらず、近隣県から来られている研修生もいらっしゃいます。そういった研修で病院に来ていた人が近隣の薬局に異動されると、薬剤部のことがわかっているのですごく話しやすいですね。例えば、疑義照会でなくても「この患者さん

のことで相談したい」と話ができれば、薬局の仕事が終わった後に直接病院に来てもらって、カルテを見たり、場合によっては医局に行って一緒に医師と話をしたりと、かなり密接な連携ができていていると思います。

筑紫地区にはまだ専門医療機関連携薬局がないので、まず門前薬局に認定を取得していただくことを目標に、こちらから声をかけて研修に来てもらっています。安心して患者さんを見ていただくためにも専門医療機関連携薬局を増やして、お互いに症例について話し合いたいと思っています。

本田 専門医療機関連携薬局は2024年5月現在、福岡県下に8軒あり、そのうちの3軒がそうごう薬局ですが、まだまだ少ないと思っています。これを増やすことも大切です。多くの患者さんが、がんに関する知識や経験値の少ない薬局に処方箋を持参しているという現状のなかで、やはり地域医療の底上げを考えてないといけないと思います。専門医療機関連携薬局に求められることとして、連携による患者さんの指導やフォローアップなどの治療支援はもちろんのこと、地域での連携強化や他薬局への教育も含まれていますので、天神中央店でも他薬局での受け取りを希望する患者さんに対するサマリーの作成・送付や専門医療機関連携薬局同士の連携強化に取り組み始めています。また、柿本先生、衛藤先生が中心となって設立された「福岡オンコロジー病診薬連携研究会」が地域医療のベースアップ、連携強化において果たしている役割はとても大きいと思います。

「福岡オンコロジー病診薬連携研究会」の活動と今後

柿本 「福岡オンコロジー病診薬連携研究会」は、若手ですががん治療に携わっている病院薬剤師、薬局薬剤師の横の連携を実現したいという思いがあり、医薬品卸の方にもご協力いただいて2016年に発足しました。具体的な契機として、ドセタキセル療法の患者さんに浮腫予防としてデキサメタゾンの錠剤が処方されていたのですが、薬局側では制吐薬としての認識であったため、「吐き気がないなら飲まなくていいですよ」という説明をしたために服用しておらず、浮腫が出てしまったという経験があり

ました。当時は福岡大学病院に勤務していましたが、門前薬局に持参される処方箋は半数程度で、残りはどこかの薬局に行くのか分からないという状況の中で、門前に限らず福岡市全体を巻き込んで情報共有を図る必要性を強く感じていました。

衛藤 研究会はこれまでに11回開催していますが、毎回100名程度の薬剤師の先生方に参加していただき、現在では佐賀や長崎、広島など他県からの参加者も増えてきています。レジメンや標準治療に関する内容は病院側からレクチャーしていますが、一方的な情報提供ではなく、患者さんと対面したときにどういった情報をどのように引き出せばいいのかといったスキルについては薬局薬剤師の先生からレクチャーしていただき、病院薬剤師と薬局薬剤師の掛け合いでお話を進めるようにしています。

本田 私は1回目から聴講者として参加していましたが、4回目からは世話人としてこの会に関わっています。とても印象に残っていることとして、1回目に病院の先生から「質問はありませんか」と薬局側に声をかけたところ、薬局の先生が「とても私たちには恐れ多い」という返事をされており、これは病院と薬局の関係性として特徴的だと思いました。薬局としては思ったこともなかなか言いづらく、病院としてもそのように恐れ多いと思われる、一緒にやっっていこうとも言いがたい。この研究会が繰り返し開



催されるにつれてそれがかなり払拭され、個人的にも非常に嬉しかったですね。

研究会の活動によって薬剤師同士の連携を作ることについては、かなり実現できていると思います。今後はさらに診療所や看護師など多職種を巻き込んで活動できればと思いますし、実際に患者さんの声を聞ける場があると、医療職としてさらに身が引き締まる良い機会になると思います。

柿本 私は先ほども申し上げましたが、専門医療機関連携薬局をもっと増やすべきだと思っています。この研究会でもどうやって増やすか、増やしていくための取り組みがテーマにできればと思っています。

本田 病院の隣に専門医療機関連携薬局がそれぞれあってしかるべきだと思いますが、なかなか数が伸びておらず、全国的に見てもがん拠点病院が全国で500ヵ所近くある中、専門医療機関連携薬局はまだ200ヵ所弱で、しかも一部地域に集中しています。

柿本先生や衛藤先生のような先生が、周りの薬局と一緒にやっという働きかける影響はものすごく大きいものがあります。それをもっと全体でシナジーとして作っていくと、1対1ではなかなかできなかったことでも、他の先生との繋がりのできることもあります。そのシナジーを起させるのが福岡オンコロジー病診薬連携研究会だと思

ます。

衛藤 研究会では今後、がん治療に関する最新の話題も引き続き情報として共有していきたいと思っています。私は現在がんセンターでがんゲノム医療にも関わっていますが、患者さんも医師にはなかなか聞きづらいことでも、薬剤師には比較的気軽に聞いてくるので、病院、薬局を問わず、薬剤師として知っておかないといけない新しい分野の一つだと思います。

また、irAEの一つでもあり、今後、さまざまないくつかの疾患での使用が期待されている二重特異性抗体による副作用の一つであるサイトカイン放出症候群（CRS）がこれから増えてくると考えられます。基本的には入院中に起こる副作用ですが、いつ起こるかわからないこともあるので薬局薬剤師も知識として知っておく必要があります。こういった新しい副作用の情報も今後、提供していきたいと考えています。

*福岡オンコロジー病診薬連携研究会の活動については以下のH.P.を参照
https://oncologyrenkei.wixsite.com/mysite

そうごう薬局への期待

衛藤 専門医療機関連携薬局の認定要件にもなっている、がんの専門性の認定を受けた薬剤師については、私ももっと増やすべきだと考えていますが、そのため

に必要な病院実習への申し込みが頭打ちになっていると感じます。JASPOでは30日間、医療薬学会では5年間の病院実習が必要とされていますが、小規模の薬局にはそれだけの研修に人材を出すことが難しいという状況が背景にあります。

本田 総合メディカルでも社内で認定薬局を増やすための取り組みは続けており、がん拠点病院の隣にある薬局については、有資格者を育て、資格取得後には専門医療機関連携薬局となれるよう、企業として支援しています。今年度中には10薬局程度にまで増やそうとしていますが、地域の他薬局支援となると、それぞれの会社の方針などもありますので、苦心しているところです。

柿本 たとえすぐに資格や認定を取るのが難しいとしても、がん治療において病院と薬局の連携はとても重要です。疑義照会ひとつをとっても、やはり薬局の先生方にとって疑義照会はハードルが高いために、それを避けるために処方意図を探しあぐねている時間があると思うのですが、とても勿体ないことです。特にがん治療においては投与方法を一つ間違っただけで事故につながる確率も高く、新しい抗がん薬やそれに伴う副作用の情報も日々アップデートされているので、どんな疑問についても気兼ねなく聞いてほしいという思いが一番強いですね。入院患者さんの平均在院日数は10日程度で、その間に1、2回ぐらいしか会えないし、それで患者さんの生活まですべてが分かるわけではない。病院からは出せる情報は全部出すので、薬局の先生方にフォローしてほしい、そして迷うことがあれば聞いてほしい。それが一番の願いです。

本田 私も資格を取得する前から学会に参加した際などに病院の先生方とお話をして、こういった質問をしてもいいんだという経験を積み重ねてきたことで今に至っていると思います。資格取得については当社の例でお話しすると、1、2年目は薬局に慣れるのに必死で、勢いはあってもなかなか病院実習は視野に入ってこない。3、4年目になると薬局業務に慣れて、もっとレベルアップをしたいということが視野に入りますが、その頃には薬局長として薬局経営の責任が出てきます。そこで現在は私が社内のコーディネーターとして、上司との折衝や研修の受け入れ先の先生との交渉を行っています。そう

いったコーディネートをしてくださる方がJASPOにもいてくれたら、とても心強いと思います。

衛藤 そうごう薬局は知識の面、患者さんへの接遇、医師、病院薬剤師への対応など、本当に教育体制がしっかりしているのだと思います。そうごう薬局で病院と連携することで、こんなに素晴らしい治療が実現できているということも、全国の方々に知っていただきたいですし、私たちも薬局薬剤師と連携することで新たな視点が生まれます。薬局にはこういう視点で患者さんに接してほしいから、病院からはどういう情報を提供すべきかという気づきにつながります。病院と薬局が相互に高めあうためにも連携の魅力を皆さんにぜひ知ってほしいと思います。

柿本 特に本田さんの天神中央店では、がんだけでなく糖尿病でも専門のチームがあり、薬局内でも症例検討会など時間を作って話し合っていて、体制がとてもしっかりしていると思います。

今回はがん治療についてお話をしていますが、例えば循環器の領域において、特に心不全の患者さんが増えてきています。薬物治療においてポリファーマシーがとても大きな問題となっている中で、多くの学会や病院がポリファーマシー解消に取り組んでいますが、心不全治療においては、現在でも多種類の薬剤が長期予後改善薬として処方されています。もちろん生活習慣改善も大切ですし、今後はジェネラリストとして、そういった領域にも関わりたいと考えています。そうごう薬局においても、がん領域以外の専門薬剤師も育成していただければ、今後連携のフィールドがもっと広がっていくと思います。

衛藤 循環器、糖尿病以外にも腎臓病や緩和の領域でも専門的な知識をもった薬剤師が今後必要とされてきます。また、がんを専門にするにしても、一方ではジェネラリストとして他の領域にも精通していることが求められる時代です。ジェネラリストとしての知識と専門領域を併せ持って勉強する志がこれからは必要です。

本田 薬局薬剤師としても、専門性のところを頑張って勉強することによって、病院との壁を低くすることができるかもしれません。本日は長時間ありがとうございました。

（本座談会は2024年5月に実施されました）



そうごう薬局 薩摩川内店
**専門医療機関
 連携薬局認定**

2024年1月、そうごう薬局 薩摩川内店が総合メディカルグループで5件目となる専門医療機関連携薬局となりました。薬局長でBPACC※を取得した坂口和志さんに、専門薬剤師を目指すこととなった経緯や、今後の抱負などをお聞きしました。

※BPACC：外来がん治療専門薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会認定）

写真左から、田中瑞枝さん(RCS)、坂口和志さん、上赤明美さん(RCS)



そうごう薬局 薩摩川内店
 鹿児島県 薩摩川内市永利町2452-5
 TEL:0996-20-7201 FAX:0996-22-7502
 (開局日)月～土(祝日を除く)
 (開局時間)月～金 9:00～18:00
 土 9:00～13:00



OTC薬やそうごう薬局のプライベートブランドである「SOGO SMILE商品」のほか、管理栄養士のおすすめ食品も充実

健康サポート薬局 Report

第5回LECT健康相談会を開催しました(広島)



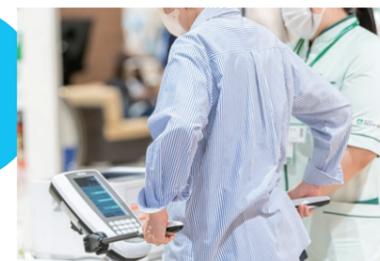
広島市の商業施設「LECT」で、健康チェックを通じた地域住民への健康支援とそうごう薬局の周知・来局促進を目的に、5回目となる健康相談会を開催。多くの方にご来場いただきました。

健康フェア in LECT ～健康チェックと健康相談～

日時 2024年5月23日(木) 10:00～14:00
 場所 LECT(広島県広島市西区扇二丁目1番45号)
 開催内容 体組成、血圧・血管年齢測定、AGEs、子供薬剤師体験、健康相談
 参加薬局 そうごう薬局 草津店、フジグラン広島店、大竹店、藤脇店、倉重店、尾長東店



体組成



健康相談



血圧・血管年齢測定



AGEs



子供薬剤師体験



分包機をレンタルし、錠剤の一包化を体験していただきました



この健康相談会は当社薬剤師が施設にお声がけして始まり、今年で5回目の開催となります。今回は103名の方にご来場いただき、初めての試みとして、機器を使った測定のほか、分包機をレンタルして、お子さまに錠剤の一包化を体験していただきました。地域の方々の健康増進支援とともに、当社薬局の認知やご利用を目的として、そうごう薬局公式アプリ「タヨリス*」の紹介をおこない、23名に登録していただきました。広島県内の各薬局でも定期的に健康相談会を開催していますので、「健康相談会参加カード」をお渡して、そちらへの誘導も行っています。他の商業施設でも同様の健康相談会を実施しており、住民の方々の健康増進に対する意識の高さを実感しています。今後もこうしたイベントを継続してまいります。

*タヨリス：「お薬手帳機能」や「オンライン服薬指導機能」などを搭載したそうごう薬局の公式アプリ



COMMENT



がん患者さんが安心して治療を継続するために、地域のがん薬物療法ベースアップに取り組みます

そうごう薬局 薩摩川内店 薬局長 坂口 和志

薩摩川内店での処方箋枚数は月に550枚程度で、そのうち6割強が内科メインの主応需先からとなります。広域処方の方ほとんどが地域の基幹病院からで、循環器、整形外科、内分泌内科、脳神経外科、呼吸器科など多岐にわたりますが、そのうちがん患者さんは月に15名程度です。がん関連の処方箋は主に呼吸器科からのため、肺がんの患者さんが最も多く来局されます。基幹病院との薬薬連携としては、病院からは①お薬手帳へのがん種・レジメン・副作用グレード・介入コメントなどが盛り込まれた情報提供文書の貼付、②入院中の治療経過について記載された退院時情報提供文書、③テレフォンプォローアップ依頼書などが支給され、薬局はいただいた情報をもとにテレフォンプォローアップした内容をトレーシングレポートとして提出したり、院内のがんカンファレンスへの参加などを実施しています。

私は入社後、指宿店と沖縄の薬局で勤務していましたが、そこではがん関連の処方箋はほとんど応需していませんでした。薩摩川内店に赴任後、数は少ないもののがん関連の処方箋を応需することになり、不安を感じるとともにもっと勉強したいという気持ちが高まり、病院主催のがん研修会に参加し、そこで外来がん治療専門薬剤師(BPACC)の認定制度を知りました。その後、2021年11月から、がん診療病院連携研修に参加しましたが、研修中に薬剤師外来でがん患者に介入することでさまざまな影響を受け、少しでもがん患者さんが安心して治療を継続できるよう支えられる薬剤師になりたいと思い、認定薬剤師を目指すこととしました。社内のがん研修プログラムに参加するメンバーと切磋琢磨することにより最後まで勉強を続けることができ、2023年4月にBPACCを取得することができました。

薩摩川内店では、基幹病院からのがん関連の処方箋は2割程度しか応需しておらず、残りは地域のさまざまな薬局で対応しています。がん患者さんが地域で安心して治療を継続するためには、地域のがん薬物療法に関するベースアップが必要と感じ、専門医療機関連携薬局の認定を目指し、本年1月に認定を取得することができました。

当薬局では、ステージ4でQOLを維持することを目的に抗がん剤治療をされる方が比較的多くいらっしゃいます。その中の高齢のがん患者さんで家族と旅行に行きたいが、最近始めたEGFR阻害剤での皮膚障害に不安を訴える方がいらっしゃいましたが、介入により上手く症状をコントロールすることができ、そのおかげで家族との旅行も満足に楽しめたとうかがいました。患者さんが大切な方と過ごされる時間を作る手助けができたことは、薬剤師として非常に嬉しく思いました。

今後は薩摩川内店に来局されるがん患者さんのみならず、地域の他の薬局を利用する患者さんが安心して治療を継続できるような、薬局・地域づくりをしていきます。そのためには私自身が常に知識のアップデートを図ることはもちろん、地域の薬剤師向け勉強会や情報提供等を継続して実施していく必要があると思いますし、またRCSとも協力し、健康サポート活動も充実させてまいります。

(本インタビューは2024年5月に実施されました)

なごや健康フェア2024春に出展しました

愛知、岐阜、三重在住者の健康増進普及啓発を目的に年2回開催されている「なごや健康フェア」に総合メディカルグループの総合メディカル・ファーマシー中部(株)と(株)中日エムエスが薬局マルシェ*コーナーに出展。多くの来場者にお越しいただきました。

*薬局マルシェ：調剤薬局の地域貢献事業の一環として、毎回テーマを設定しながら各薬局ごとにPRを行うコーナー



なごや健康フェア2024春
 日 時 2024年5月19日(日) 10:30-16:00
 場 所 中日ホール&カンファレンス
 共 催 (一社)名古屋市 薬剤師会、(一財)近畿健康管理センター

総合メディカル・ファーマシー中部株式会社

間食をテーマに「間食～意外と好感度?～」というテーマでセミナーを開催



地域貢献活動の一環として、なごや健康フェアには1回目から参加しています。当初の参加者は100名程度でしたが、今回は事前予約で800名以上の申し込みがありました。当社はハロー薬局として「間食～意外と好感度?～」というテーマでセミナーを開催し、227名の方に立ち寄っていただきました。テーマについては毎回、各薬局で患者さんとの会話の中で必要とされていること、興味のあるようなことを聞き取って決定しています。講義は薬剤師のみならず、RCS*も担当いたしました。本イベントに参加することで、そうごう薬局公式アプリ「タヨリス」の登録者数が増えたという実感がありました。ファーマシー中部では本イベント以外にも薬局近隣の病院のお昼休みに健康相談会を実施したり、体組成計による測定と健康アドバイスなども実施しています。今後は健康相談会やさまざまなイベントを企画し、地域の皆さまの健康サポートや健康増進につながる取り組みを実施してまいります。
 *RCS(ラウンドケアスタッフ)：保険請求業務のみならず待合室における患者サービス全般を主として担当するスタッフ

総合メディカル・ファーマシー中部株式会社

[東海地区でハロー薬局を58薬局展開]



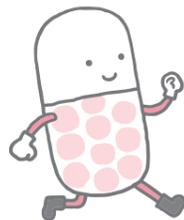
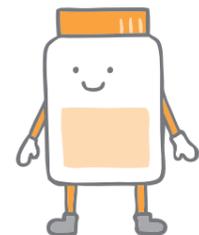
株式会社中日エムエス

体組成計での測定結果に基づくアドバイス、薬剤師の仕事紹介を実施

多くの来場者で賑わうフェア会場



体組成計の測定と栄養士による食事相談



クイズによる薬剤師の仕事の紹介



一包化監査の疑似体験

なごや健康フェアには今年から初めて参加しました。出展内容はRCSが企画し、薬局・薬剤師の仕事紹介、体組成計による測定、栄養士による食事相談としました。薬剤師の仕事紹介では、来場者の方にクイズに答えていただき、薬局のお仕事を説明しました。またビーズを使って一包化の監査を疑似体験することもさせていただきました。栄養士による相談コーナーでは、食事や栄養に関する基本的な説明を行いました。当社は5店舗で栄養士が駐在し、毎月栄養相談会を行っていますのでそちらへの誘導も意識しました。薬局の外で行うアウトリーチ型のイベントへは初めての試みでしたが、想定を大幅に上回る153名の方に立ち寄っていただき、健康増進と薬剤師の仕事に対する関心の高さを実感することができました。

株式会社中日エムエス

[愛知県下で中日調剤薬局を16薬局展開]



高齢化が進行する地域における 総合メディカルの取り組み

岩手県は全国的にみても高齢化率が高い県ですが、特に薬局が位置する気仙医療圏（陸前高田市、住田町、及び大船渡市）は高齢化率39.3%と、県の中でも高齢化が進行している地域です。これは20年後の全国平均予想を上回る数字ですので、私たちの今の取り組みが20年後の日本におけるモデルになるように、これからも地域の健康ステーションとしての活動を続けてまいります。

数字はいずれも地域医療情報システム(JMAP)より、2020年現在
<https://jmap.jp/>



気仙医療圏
(大船渡市、陸前高田市、住田町)

住田町

大船渡市

陸前高田市



① そうごう薬局 住田店

町との連携を強化し、より気軽に便利に利用していただける
薬局を目指します

そうごう薬局 住田店 薬局長 佐々木 希

当薬局は近隣の診療センターからの処方箋の応需が約7割です。住田町は医療機関の数も限られているので、地域で連携して患者さんをサポートすることが必須となります。

当薬局は、住田町で開催される在宅医療連絡会議に毎月参加し、病院や診療所、訪問看護ステーション、町の職員の皆さまや地元薬剤師会などと情報交換を行っています。また、グループホームでの勉強会にも参加し、薬や生活面でのアドバイスなどを行っています。夜間休日の対応としては、薬剤師3名の持ち回りで携帯電話によるオンコール体制を取っています。

現在も処方箋を持たずにサプリメントの相談などで来局いただく方もいらっしゃるなど、地域の方との良好な関係を築くことができていると思いますので、今後もこの関係をしっかりと継続して、気軽に立ち寄っていただける薬局とするとともに、町との連携も強化してまいります。



岩手県 気仙郡住田町世田米字大崎25-4
TEL:0192-49-1151 FAX:0192-49-1152
(開局日)月~土(祝日を除く)
(開局時間)月~金 9:00~18:00
土 9:00~12:00



② そうごう薬局 高田店

今の取り組みが将来の日本のモデルとなるような活動を続けます

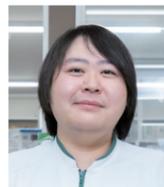
そうごう薬局 高田店 薬局長 工藤 拓也

高田店は隣接する県立高田病院からの処方箋が約8割を占めます。東日本大震災の際に、病院も薬局も津波の被害を受けたため、2018年3月に高台に移転し、再オープンしました。ご高齢の患者さんが多いのですが、同時に小児の患者さんも多く来局されるので、薬局内にはキッズスペースも設けています。

地域での連携については、陸前高田市と大船渡市での多職種連携会議や、気仙地域での要介護認定審査会に参加する中で、医師、歯科医師、訪問看護師、介護士などさまざまな職種の方々と普段から交流し、顔の見える関係を築いています。また退院時カンファレンスにも参加し、在宅へのスムーズな移行を図っています。

健康増進活動については、月に1回薬局内で健康相談会を開催するとともに、地域の医師が主催する運動会や地域の健康祭りにも積極的に参加しています。学校薬剤師としても2校受け持ちしており、若い世代にも健康への気付きや薬剤師の仕事に興味を持ってもらえるような活動も継続しています。

当薬局は今年の会社のテーマでもある「つなぐ」をスローガンに掲げており、外来患者さんでも在宅患者さんでも、入院の方と同じように、地域全体で多方面から見守る体制づくりが必須だと考えています。私たちの今の取り組みが、日本におけるモデルになるように、これからも地域の健康ステーションとしての活動を続けてまいります。



岩手県 陸前高田市高田町字太田512番地3
TEL:0192-53-2251 FAX:0192-53-2252
(開局日)月~土(祝日を除く)
(開局時間)月~金 9:00~18:00
土 9:00~13:00



③ 森の前薬局

地域のコミュニティと協力して、健康増進に寄与してまいります

森の前薬局 薬局長 新田 純

森の前薬局は近隣の医療機関からの処方箋が約7割です。在宅については2カ所の施設の処方箋を月に200~300枚程度応需しています。個人在宅は現在6件ですが、来局が困難なご高齢の方も多く、今後は在宅訪問を希望される方も増えると思いますので、準備を進めています。

陸前高田市は東日本大震災で甚大な被害を受けましたが、憩いの場の創出を目的として、地元の医師や地域住民により、コミュニティカフェ「りくカフェ」の活動が始まりました。森の前薬局も運営メンバーとして参加し、医院、歯科医院とともに健康と生きがいづくりの場としても機能しています。活動の一環として「りくカフェ健康食育講座」を定期的に開催しており、薬局内で骨密度測定や、お薬・栄養相談会などを実施しています。

薬局間の連携としては、医療施設、薬局も少ない地域ですが、陸前高田市、大船渡市、住田町に位置する薬局で当番制を敷き、休日にも対応可能な体制を整えています。

森の前薬局は以前よりOTCの販売も強い薬局ですので、今後はそういった方面にも注力したいと思いますし、総合メディカルが全社的に推進している医療DXについても、取り組んでまいります。また、私はこの地域の出身ではないので、地元のコミュニティに詳しいRCSの方とこれからも協力して、地域の健康増進に寄与していきたいと思っています。

「りくカフェ」の活動については、以下をご参照ください。
<http://rikucafe.jp/>



岩手県 陸前高田市高田町字鳴石89-25
TEL:0192-55-6200 FAX:0192-55-6100
(開局日)月~土(祝日を除く)
(開局時間)月~水、金 8:30~18:00
木 8:30~17:00
土 8:30~12:30

オンライン服薬指導体験イベントを開催しました

住田町では薬局は1軒だけです。遠方から来局される患者さんも多く、オンライン診療、オンライン服薬指導は今後必要となってくると考えていました。そのような中、住田町からもオンライン診療、服薬指導を町民に周知、浸透させたいという要望があり、今回初めて体験会を実施することになりました。実施にあたっては他にさまざまな測定や健康相談なども行い、多くの方々にご来場いただくことができました。

日時 6月15日(土)14時~17時
場所 住田町農林会館
開催内容 オンライン服薬指導体験、体組成、
血圧・血管年齢測定、AGEs



2024年 学会発表演題紹介

日本臨床腫瘍薬学会学術大会2024

バタフライ・エフェクト ～小さな羽ばたきから臨床腫瘍薬学の発展へ～

開催日: 2024年3月2日(土)～3日(日) 神戸国際展示場(神戸市)

当グループより、薬剤師3名が発表しました。



「専門医療機関連携薬局にて濾胞性リンパ腫におけるG-CHOP療法施行中のステロイド離脱症候群を疑い、適切な対応を提案した1例」

そうごう薬局 塩原店 本村真悟

■ 発表概要

G-CHOP療法施行中のステロイド離脱症候群(以下 SWS)を電話フォローアップにより発見し、1次資料の論文を参考にステロイド漸減投与を対応方法として提案した結果、患者のQOL低下を防いだ事例を報告した。SWSへの対応方法についてガイドライン等で明示されたものではなく、保険薬局においてもどう対応すべきか定まっていな中、保険薬局薬剤師も1次資料まで勉強することが求められている。

発表者のコメント

JASPOに今回初めて現地参加させていただき、大変勉強になったのと同時に、もっと患者さんのためにできること、薬局薬剤師のこれからの可能性について考えるよい機会となりました。

第17回日本緩和医療薬学会年会

地域に密着した緩和医療薬学を目指す

一病院、薬局、アカデミアのsustainableな連携を通して

開催日: 2024年5月24日(金)～26日(日) 文京シビックセンター 他(東京都文京区)

当グループより、薬剤師3名が発表しました。



「在宅PCAに新たにに取り組む在宅医に対して薬局薬剤師がサポートすることで円滑に導入することができた症例」

みよの台薬局 品川二葉店 米本奈央

■ 発表概要

近年、薬局が在宅緩和ケアの充実に関わっていくことが益々求められている。中でも在宅Patient Controlled Analgesia(以下PCA)は簡易的で迅速な痛みのコントロールができるというメリットがある一方で、医療用麻薬の注射薬の取り扱いや投与デバイスの調整も必要となるため、内服や貼付剤に比べて在宅で実施する難易度が高い。在宅PCAに新たに関わる在宅医において、在宅PCA対応の経験をもつ薬局薬剤師が、薬剤の準備から機器の使用法説明までサポートすることにより、安全に運用した症例を報告した。

第16回日本がん薬剤学会学術大会

つながる心、拡がる未来、多様性が切り開くJSOPPの新展開

開催日: 2024年6月8日(土) タイム24ビル(東京都江東区)

当グループより、薬剤師2名が発表しました。



「薬剤管理サマリーを通じた情報共有によって保険薬局薬剤師が適切な服薬指導を行えた1例」

そうごう薬局 豊洲店 菊池麻子

■ 発表概要

外来がん薬物治療患者が増加する中、連携充実加算の新設など、医療機関から保険薬局に対して指導上必要な情報提供が求められている。一方で、連携充実加算に係る情報提供のうち、「その他 医学・薬学的管理上必要な事項」として、どのような情報が必要かについての報告は少ない。今回、大腸がん患者に対して、病院からの薬剤管理サマリーにより手術部位などの詳細を把握できたことで、服薬指導の質を充実させることができた事例を経験したため、報告した。

日本医療薬学会

第7回フレッシューズ・カンファランス

開催日: 2024年6月15日(土)～16日(日)

北里大学白金キャンパス(東京都港区)

五所川原店の笹本雄理さんが優秀演題発表賞に選出されました。



「介護施設への薬の配達を事務員から薬剤師に変更したことによる連携強化への影響」

そうごう薬局 五所川原店 笹本雄理

■ 発表概要

介護施設に入居する患者さんへの薬学的管理の質向上を目指し、2022年7月より薬剤のお届けを薬剤師が行うこととしている。今回の発表では、前後1年間での実績を比較し、患者情報共有・連携がどのように変化したか調査した結果を報告した。結果、外来服薬支援助料算定件数やトレーシングレポート報告件数が増加するなど、患者さんの薬物治療の貢献に繋がったことが示された。また、施設からの薬に関する問い合わせが減少するなど、施設スタッフへの貢献も示されたことで連携強化にも繋がったと考察した。

総合メディカルの人財育成

総合メディカルでは、マネージャーを目指すための研修や、薬剤師としての専門性向上を目指すための研修などを多数実施しています。本コーナーでは人財育成部 白濱シニアマネージャーより、研修でお伝えしている内容の一部を連載でご紹介いたします。

マネージャーに必要なキーワード

「リスクマネジメント(調剤過誤の防止)」

調剤過誤を防止するための薬局長の役割

薬局で発生するリスクへの対応は、管理者である薬局長の重要な役割の一つです。特に、患者さんに安全・安心な医療を提供するために、調剤過誤の防止と共に、リスク発生時の対応など、スタッフ育成や環境整備においてさまざまな観点から取り組む必要があります。

薬局長を目指す方のための研修(マネジメント研修ファースト)について

■ 研修概要

本研修では、薬局長として理想の薬局をつくるために必要となるマインド・知識・スキルを約3か月にわたって学びます。eラーニングや講義のほか、グループ討議を通じて受講者同士で学びあう場を提供しています。

■ 研修内容 「調剤過誤の原因分析(PHARM-2E[®])」について

調剤過誤は、未然に防ぐことが必要ですが、万一起こってしまった後にも適切な原因分析と、改善計画の立案・実行によって再発防止に努めることが重要です。『PHARM-2E』は、具体的要因と対応策を考える上で有用です。調剤過誤が発生した原因を、調剤(Practice)、人(Human)、機器・モノ・表示(Appliance)、連携(Relation)、組織・管理(Management)の5つの視点から振り返るとともに、どのような対策を講じる必要があるのか、教育・訓練・強化・徹底(Enforcement)、技術・具体例(Engineering)から考えます。研修では、この『PHARM-2E』を活用し、薬局運営を含めた検討を行っています。

※日本薬剤師会「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」参照



専門性向上に必要なキーワード

「セルフメディケーション」

「セルフメディケーション」とは

セルフメディケーションとは、自己の健康管理のため、医薬品等を自分の意思で使用することを指します(日本薬剤師会)。薬局はファースト・アクセスの医療機関として、利用者の危険な症状を見分け受診勧奨を行うほか、ニーズに応じた安全かつ有効な商品の選択や、予防や改善のために生活習慣を含めたアドバイスを提供することなどが求められています。

トリアージと情報収集に関する研修

■ 研修概要

薬剤師は、セルフメディケーションを支援するため、情報を提供し、アドバイスする役割を担っています。状態によってはOTC医薬品による対処ではなく、医療機関でのケアの必要性を判断し、受診を勧めることも大切です。これを「トリアージ」と呼び、eラーニングによる学習やロールプレイを通じ、スキルの定着を図ります。

■ 研修内容 「相談者への対応とLQQTSAF」

相談者が来局された際の標準的な対応手順において最も重要なのは、情報収集と状況確認であり、情報と医学的・薬学的知識を結び付けて評価し、判断することが必要です。そのため研修では、薬を使用するのは誰か、年齢、妊娠・授乳の有無などの基本情報、相談者が訴える自覚症状については「LQQTSAF(医療面接での自覚症状に関する質問手順)」に基づき詳細に聞き取ることを学習します。

具体的には、部位(Location)どこが、性状(Quality)どのような、程度(Quantity)どれくらい、時間と経過(Timing)いつ・いつから、状況(Setting)どのような状況・きっかけ、寛解・増悪因子(Factor)どんな場合に悪くなる(良くなる)、随伴症状(Associated manifestation)の順に確認すると、自覚症状の情報を網羅的に把握することができます。



vol.88

2024年7月発行 発行／総合メディカル株式会社
〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名 2-9-23
薬局事業本部 TEL：092-713-7061

